

「平和を保ちなさい」
Ⅱコリント13：11

皆さん、おはようございます。今年も敗戦記念礼拝の日を迎えました。日本が無条件降伏をし、第二次世界大戦が終結した1945年8月15日から約79年が経ちました。私たちは、この日を「終戦」ではなく、「敗戦」と、しかも敗戦を記念して今礼拝を神様にささげています。

しかし、世では未だ「終戦の日」と呼ばれています。防衛大学名誉教授の佐瀬昌盛^{させまさもり}氏は、「当時「国民学校」の5年生の私にとって、それは紛れもなく敗戦であった。」と述べていました。「敗戦」には屈辱感^{くつじよくかん}が漂^{ただよ}うからでしょうか。しかし、「終戦」は、第三者的で痛みが伴いません。

第二次大戦のもう一つの敗戦国ドイツでは、戦争終結の時点を指す「クリークスエнде」という言葉があり、ニーダラーゲという「敗戦」の訳はあっても、「終戦」という言葉の独訳は不能だそうです。では、ドイツでは「敗戦」はどう理解されているかという、日本では、「敗戦」を悲しみと捉えるのとは逆に、ドイツでは、「解放」「喜び」と受け止められていて、さらに、当時のフォン・ヴァイツゼッカー大統領の演説により、敗戦の日は「ドイツ史の歩みを反省する日」となったそうです。

今も、ウクライナとロシア、イスラエルとガザという国家間の戦争が続いています。それだけではなく、紛争もあります。相変わらず「平和」という重い課題、未だ乗り越えられない課題が私たちにはあるのです。キリスト教、クリスチャンにとっても、とても重要な要素である「平和」。聖書は、「平和」は、オプションのような、あったらよいというようなものではなく、なくてはならない本質的なものだといいます。そして、不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君と呼ばれるイエス・キリストが、神との関係が壊れ、戦争と暴力と罪にあふれた世界に、神の敵であった私たちのところに来てくださり、十字架と復活をもって、私たちに神様との平和を与えてくださいました。

それだけでなく、私たちに助け手である聖霊を送ってください、今度は私たちにイエス様に続いて和解の務め、ことばを委ねてください。今日、聖書から今一度私たちのなすべきことを確かめていきましょう。

では、本日の聖書箇所を共に読みましょう。Ⅱコリント13：11

○手紙の最後

パウロ手紙の最後で5つのことを勧めます。「喜びなさい」「完全になりなさい」「慰めを受けなさい」「思いを一つにしなさい」「平和を保ちなさい」。平和を保つということの前に、励まし合いなさいとも訳せる「慰めを受ける」と、「思いを一つにする」という1人ではできないことが出てきます。これを抜きにすると、私たちは自分を守る壁を作ってしまう、自分の平和を作りあげ、それが相手の平和とぶつかり合い、争い、戦争となっていくのです。私たちは自分の平和ではなく、キリストの平和を求めているかが問われます。

イエス様も、山上の説教で群衆、そして近くにいた弟子たちに「平和をつくる者は幸いです」と言われました。平和を守るではなく、「つくる」と言っています。「つくる」という言葉は、積極的で行動的な言葉です。平和は、平和が訪れるのを待つものではなく、つくっていくもので、私たちの使命が平和をつくることだと言われます。平和のないところに、キリストの平和をもたらせと。そして、あなたたちはできるとイエス様は教えておられます。

では、私たちはどうしたら、平和をつくるもの、ピースブレイカーではなく、ピースメイカーになれるのでしょうか？今日の箇所「平和を保つ」前に、励ましあうことと、思いを一つにすることがあったように、イエス様も、「平和をつくる」ことの前に、心のことについて6つのことを言われました。

①心の貧しい者は幸いです。自分の心の貧しさを自覚しているか。

②悲しむ者は幸いです。自分や世界がいかに神様の前にあって悲しむべき状態にあるかを気づいているか。

③柔和な者は幸いです。むしろ自己中心、自分を正当化し、自分で自分を守り、心が凝り固まっていないか。

④義に飢え渴く者は幸いです。特に自分が神様の前にあって、いかに正しくない者であるか、本当の自分を見れているか。

⑤あわれみ深い者は幸いです。自分がかawaiiそうと思うのではなく、相手がかawaiiそうに思う思いはあるか。

⑥心のきよい者は幸いです。自分でいっぱいな心ではなく、神様でいっぱいな神中心の心だろうか。

イエス様は平和をつくるということの前に、私たちに6つも心の問題があることを教えてください。戦争・争いがこの世界から無くならない理由は、本当色々あると思いますが、その根本にあるのは、私たちの心の状態が深く関わっているということです。私たちが平和をつくるためには、まず、自分の心と向き合い、自分の心の貧しき、無力さを知り、悲しみ、その心の状態に唯一回復を与え解決することのできるイエス様の前に出ていくことです。

そして、今日の箇所にも、まず「喜びなさい」とあります。私たちクリスチャンは自分が喜ぶことが起きたら喜ぶのではないということです。それではいつも喜ぶことはできず、不平不満、怒り、悪口が増え、神様とだけでなく、人との平和も壊す側となってしまいます。そうではなく、神様が私たちのためにしてくださったすべての良いことのゆえに喜ぶのです。神様が私と共におられる、自分は救われている、イエス様の十字架による完全な赦しを与えられている、今日も神の子として生かされている、こんな私たちを用いてくださる主がおられる、この救いの事実をいつも確認し喜ぶのです。詩篇103編2節のみことば。このみことばがこの「喜びなさい」の背後にあります。

次は、「完全になりなさい」です。これは9節のパウロの祈りでもあります。そんなの無理とすぐに私たちは思ってしまうかもしれません。そして、この部分を飛ばしてしまうかもしれません。でもパウロは、パウロが見てもそんなの無理かもしれないと思うコリントの教会に真剣に伝えています。聖書のいう完全とは、全く失敗しない、ロボットのような存在ではなく、たとえ罪を犯したとしてもそのことを隠そうとせず、神様にすぐに立ち返ろうとする、そういう柔らかな心を持つことです。そして、自分の力ではなく、エペソ4章にキリストによって、キリストの体が、教会が愛のうちに建てあげられてくように、「種のよって」完全になりなさいということです。

励まし合いなさいとも訳せる「慰めを受けなさい」。これは1人ではできないことです。イエス様は互いに愛し合いなさいと教えられました。励まし合うことは愛することの具体化でもあります。イエス様はペテロがイエス様を裏切ることを伝えた後、こう言われました。**ルカ22:32**「ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」私たちが慰めが必要な時、主が与えてくださいます。その慰めを受け取って立ち上がったら、それで終わりではなく、今度は慰めを必要としている人に、キリストの慰めをもって励ますのです。

思いを一つにしなければ。教会に集う人はいろんな違いがあります。年齢も違いますし、性別も違います。経済的な状況も違えば、抱えている課題・問題も異なります。立場もそれぞれです。では、私たちはいったい、どのようにして思いを一つにできるのでしょうか。それは、イエスキリストを救い主と信じる信仰によって、イエス様の御名によって。そして、主の思いを自分の思いとすることによって。私たちが自分の思いで、それぞれの思いで生き続けるなら一つとなることはできません。しかし、私たちが神様の思いを自分の思いとしていくなら、私たちが互いに主にあって思いを一つにすることができるのです。

7月26日から二泊三日でTEENS キャンプを行いました。そして、今回のキャンプに、韓国のオンサラン教会の中高生と先生方も参加してくださいました。コロナ後、久しぶりの日韓の中高生の交わりでした。オンサラン教会のみなさんは25日に日本に来てくれました。私も一緒に成田空港に迎えにいきました。最初会った時は、関係が浅いから、お互いぎこちなく、子供達のキャンプ初日はぎこちなかったですが、だんだんと時間を一緒に過ごして関係が深まっていき、思いが一つとされていくのを中高生や先生たちと体験しました。そして、一緒に同じ神様を賛美し、礼拝し、主にあって交わることができました。そして、言葉、文化、国籍を越え、互いに主の大きな愛で互いを愛し合い励まし合う姿があちこちにありました。そこにはキリストの平和が広がっていました。イエス様につながっていると、イエス様が必要なものを全て与えてくれます。

平和を保ちなさい。これが私たち、教会に、私たちに与えられている使命です。主にあって平和を保つ。つくる。その歩みの始まりは、私たちが、神様が私たちの父で、私たちが神の子であるということが、恵みの中の恵みだと心から告白する時です。

イエス様が言われている平和は、私たちの生きるこの世のいう平和とは違います。この世の平和とは？戦争や暴力で社会が乱れていない状態、世の中がおだやかな状態にあること」。でもこれがイエス様の言われている平和でしょうか？この日本、第二次世界大戦後に、サンフランシスコ平和条約を結んでいます。今アメリカや、他の国と目に見える戦争は行っていません。でも日本は平和でしょうか？平和だったら、日本に自衛隊はないし、韓国の兵役はなくなるでしょう。これらは不安定な平安です。

では家庭はどうでしょうか？争いのない家庭だとしても、家族がそれぞれ心バラバラに自分のことだけに興味をもって生きていたらどうでしょうか？その家庭は争いがいいから平和と呼べるのでしょうか？

私たちの生きるこの世のいう平和は、条件や法律やまた力のあるものによって保たれる形だけの、名ばかりの平和ではないでしょうか？でもこれが神様抜きでつくる人間の平和の限界だと思います。神様抜きの平和は、力ある者が条件や法律などを変えた時、すぐに崩れてしまうものです。神様抜きの平和は、国と国、社会と社会、人と人との間に、家族間にですら壁を作り、この壁をこえさえしなければ形においては保たれる平和です。神様抜きの平和には、心がなく、愛もなく、関係ありません。力や武器や法律などによって維持されている平和です。でも神様からくる平和は違います。

日本語では、平和と平安は別々の言葉で使われますが、聖書のヘブル語を見ると、シャロームという言葉一つに、平和と平安の意味があります。イエス様の言われる平和は、形だけでなく、心もともなった平和です。見た感じが平和であっても、その心に怒り、憎しみ、不満などがあつたらそれは平和とは呼べません。

エペソ2：11から見ると、使徒パウロは神様の平和をこう説明しています。ここでは、エペソ教会の中で起こっている争い・分裂について書かれています。割礼を受けた者と無割礼の者との間に争い・分裂、平和の壊れた状態が起こっていました。不安定だった教会にパウロはこのように教えさします。エペソ2：13－18でこのように説明しています。神様と私たちは本来敵対関係にあつた。でも、神様がイエス様を送ってくださり、神様は私たちの父、そして私たちは神の子どもとされた。でも、私だけが神の子とされたのではなく、一つの御霊によって、他の人たちも父なる神様に近づくことができ、神の子とされ、みんな神の家族、兄弟姉妹と呼べる関係となつたと。

神様の平和は法律によってできるものではなく、神様を中心とした関係を通してつくれる神の家族です。使徒信条にもこうあります。われは天地の造り主全能の父なる神を信ず。ここでの主語は「われ」です。でも次にいくと、われはそのひとり子、我らの主イエス・キリストを信ず。ここでの主語は「われら」です。私たちの信仰告白は、神様が私の父だということと同時に、その父なる神様が私だけでなく、私たちの父であるということも信じるというものです。

私たち人間が家庭で、職場で、社会で、国でいくら法律や力や壁をもって平和をつくり保とうとしても、その平和は完成しません。イエス様の言われる平和が完成するためには、まず私が神様を自分の父と信じ、私の父だけでなく、他の人たち、私たちの苦手とする人、嫌いな人、敵と思える人にとっても父であることを信じる時、互いに兄弟姉妹であることを覚えて、互いに愛する者へと変えられていきます。

世界は、定義・法律・ルールを通して平和をつくろうとしますが、神様は違います。マタイ5：38－48を見ると、神様はそれらを必ず「愛」で包みます。神の子どもとされた私たちは、この平和をつくる歩みに今日も、これからも招かれています。神様の言われる平和のキーポイントは「愛」です。

パウロもこう言っています。コロサイ人への手紙3：12－17 イエス様の言われる平和は、私たちに積極的な行動、それも愛の交わりを求めるものです。このように、互いに愛し、互いの祝福を祈り、協力しあう、互いの弱さを助け合う平和をつくる者が幸いで、そういう者が神の子どもと呼ばれるといます。

私たちの家庭、そしてめぐみ教会はどうでしょうか？このイエス様の言われる平和をつくれているのでしょうか？昔の母と私を振り返ってもそうですが、この世界で一番小さい社会の単位である家庭の中でこの平和をつくり、家族を愛せない者が、教会で、土浦・つくばで、日本で霊的家族を愛せるのでしょうか？

まずは、今週自分の家でどうやったらイエス様の言われる平和をつくるものとなれるか考えみことばに従っていきたくて願います。平和はほうっておいても自然にできるものでもないですし、一回作ったら終わりというものでもなく、日々つくり続けていくものです。平和とは意識してつくりだすもの。その意識には、私は神の子ども、あの人も神の子どもという意識が必要不可欠です。

そして、平和の敵は罪です。コロサイ1：20 私たちが何よりもまず神様と敵対関係にあり、神様との関係を壊し、神様から離れたものでした。神様との平和を壊したピースブレイカーでした。でも、神様から私たちとの間にもう一度イエス様を通して平和をつくってくださいました。私たちが神様の前につくった大きな壁を壊してくださいました。そして、こんな私たちをご自身の子どものとしてくださいました。ヨハネ1：12、ガラテヤ3：20にある通りです。

そして、私たちにイエス様を通して平和のお手本を示してください、Ⅱコリント5：19 和解のことばを委ねてください、エペソ6：15 私たちの足に平和の福音の備えをはかせてくださいます。そして、イザヤ26：12 平和の主が私たちのために平和を備えてくださるので、恐れず、出来ないとおきらめず、キリストによって平和をつくっていきましょう。「愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。」平和の神が私たちと共におられるから、平和になる。この主と共にあらゆる場所に、争いがあり、キリストの平和を必要としているところに、破れ口に出ていきましょう。

祈ります。

Ⅱコリント13：11、13

愛する天のお父様、今日の御言葉をありがとうございます。神様はあなたはイエス様を通して私たちが今日もイエス様の歩まれた道へ招かれます。平和を保つ者、つくる者でありなさい。でも遠いところではなく、まず、私に与えて下さった家族のいる家庭で平和をつくる者となりなさいと言われました。神様、このあなたの命令に従いたいと願います。神様助けてください。私たちの心の中に、不平不満、怒り、苛立ちが沸き上がってこようとするとき、自分の使命がキリスト者として神様を中心とした平和を福音によってつくること、アイデンティティ、自分は神の子であることを思い出し、私たちの口から出る言葉を、あなたへの賛美と感謝、隣人への励まし・ほめる言葉、愛の言葉へと変えていくことが出来るよう、聖霊様守り導いてください。私たちの家庭、これからの歩みを祝福してください、私たちがとりなし祈る時、主の御業をなしてください、病気で苦しむ人にあなたの癒し・回復が与えられ、救いが起こり、祝福の通りよき管として用いてくださいますようお願いいたします。

私たちの救い主、主イエス・キリストの御名によって祈ります。